

# 心の窓



校訓：かしこく やさしく あかるく つよく

令和3年12月10日（金）

南関町立南関第四小学校 学校だより

No.32

文責：松永 尚子

## 研究授業（4年生）をしました。

12月3日（金）、4年生（堀川教諭）の学級で、研究授業を行いました。国語で「心の動きを言葉にして、詩を書こう」という単元でした。この学習を通して「生活の中で自分の感動を伝えるために、言葉を選んだり構成を工夫したりして詩に表すことができる児童」の姿をめざして学習を組み立ててありました。研究授業の時間は、谷川俊太郎さんの『ともだち』の詩の書き方の工夫を考えました。

まず、題名から考えました。下の詩です。□に入るのが、「ともだち」か「あいつ」かについて考えました。すると、「最初に入れるのに『あいつ』では合わないから『ともだち』だと思おう』『あいつ』だと近所で昔から仲良かったみたいなどイメージがあるから『あいつ』だと思おう」など、理由をつけて発表してくれました。

出版より引用)

谷川俊太郎 作、玉川大学出版部

おなじきもちかな

そんなきがした

うちへかえった  
ころのなかが

そんなきがした

ゆうやけをみた  
ふたりつきりで

うちゆうにうかんでる  
そんなきがした

谷川俊太郎

谷川さんは、「ともだち」と題名をつけましたが、自分なりに理由を考えているところが素敵です。次に、□に入る言葉を考えました。



次の5つの言葉（とげ、ひかり、なみだ、どろ、石）から、自分ならどれを入れるか、また、その理由について、しっかり考えて、タブレットの発表ノートにそれぞれ書き込み、意見交換をしました。子どもたちからは、「なみだ」や「とげ」の意見が多くでした。では、作者の谷川さんは、どの言葉を用いて詩を作られたのでしょうか。それは、「どろ」でした。そこに、ともだちとけんかしたときの谷川さんの思いが表れています。

このように、一つの言葉にこだわって、しっかりと考えて、詩をつくり、それを4年生の詩集れんがとして完成させたという担任の思いがあふれた授業でした。研究会では、町の学校教育専門指導員の寺田先生から、「授業の基盤は学級風土づくり。そこをしっかりこだわって、そして、交流・議論を深める授業を考えたい」と、助言をいただきました。これからも頑張ります。

## みんな、がんばったね！持久走大会

7日（火）は、持久走大会を行いました。子どもたちは、本番に向けて、業間の時間に5分間走をしたり、試走に3回ほどでかけたりして、練習を頑張ってきました。はじめは、なかなか本気になれない子どももいましたが、6年生の体育委員さんが放送で、みんな真剣に取り組んでほしいということ伝えてくれ、だんだんと気持ちが盛り上がり、当日を迎えました。そして、本番。みんなが自分の目標タイムを達成できるように、精一杯自分の力を出し切っていました。子どもたちの一生懸命な姿は、ほんとうに素敵でした。お昼の放送で、教頭先生から、「みんなの一生懸命な走りに、心からの拍手をおくります」という講評がありました。これから、この頑張りを、学校生活、学習、運動に生かして行ってほしいと思っています。交通指導や沿道からの声援など、ご協力いただき、ありがとうございました。



## 授業参観・PTA研修会・学級懇談会を行いました。

7日（火）、午前中の持久走大会の後、授業参観とPTA研修会、学級懇談会を行いました。保護者の皆様には、たいへんお世話になりました。

PTA研修会では、「ネット社会をかしこく豊かに生きるために」という題で、以前、玉名管内の小学校長をされ、現在は真和高校で教鞭をとっておられる戸田俊文様にご講演いただきました。

ネットと切り離れた生活は、現在では無理、だからこそ、上手に、賢く、豊かに使うために、子どもたちにどんな力を育むことが大切か、分かりやすく話していただきました。大事なものは、3つの基礎力（表現力、コミュニケーション力、想像力）であり、ネットでのコミュニケーションには、あと1文付け加えること。また、日頃から現実世界の相談相手をつくっておくことも大切だと話されました。お話を聞いて、四小で取り組んでいる四小スキルアップは、3つの基礎力をつけるために、

必要な取り組みだな、これからも、丁寧に取り組んで、子どもたちにネット社会を豊かに生きる力をつけたいと思いました。

